



AGC 株式会社

IR DAY 2024 <DAY 2> 化学品

2024 年 6 月 4 日

イベント概要

[企業名] AGC 株式会社

[企業 ID] 5201

[イベント言語] JPN

[イベント種類] アナリスト説明会

[イベント名] IR DAY 2024 <DAY 2>

[日程] 2024 年 6 月 4 日

[開催場所] インターネット配信

[登壇者] 2 名

常務執行役員 化学品カンパニー プレジデント

梶井 達夫 (以下、梶井)

広報・IR 部長

小川 知香子 (以下、小川)

登壇

小川：化学品事業の事業戦略に関して、化学品カンパニープレジデントの靱井より、説明させていただきます。靱井さん、お願いいたします。

目次



1. 化学品事業の概要	P.3
2. 各サブセグメントの事業戦略	P.8
■ エssenシャルケミカルズ	P.9
■ パフォーマンスケミカルズ	P.15
3. 業績目標	P.22
4. PFAS規制について	P.24
5. 付属資料	P.27

靱井：化学品カンパニーの靱井と申します。本日はよろしくお願いたします。

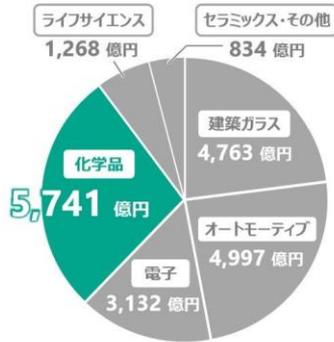
本日はこの目次のような内容で、化学品事業の概要、事業戦略についてご説明差し上げます。

化学品事業の事業規模

■ エッセンシャルケミカルズとパフォーマンスケミカルズの2つのサブセグメントより構成

2023年 売上高 (億円)

AGCグループ 2兆193億円



化学品事業のサブセグメントと主な事業内容

エッセンシャルケミカルズ (4,028億円)

事業区分	主要製品	主な需要分野
クロールアルカリ	苛性ソーダ、塩化ビニル樹脂 など	<ul style="list-style-type: none"> 化学繊維 水道管 紙/バルブ 電線 建築 など
ウレタン	ポリオール、シーラント原料 など	<ul style="list-style-type: none"> 建築 電子機器 自動車 など

パフォーマンスケミカルズ (1,669億円)

事業区分	主要製品	主な需要分野
フッ素化学品*	フッ素樹脂、フッ素樹脂フィルム、フッ素ゴム、塗料用フッ素樹脂、フッ素系ガス・溶剤 など	<ul style="list-style-type: none"> 輸送機器 エネルギー 電子 航空宇宙 建築 繊維/紙 農業 など
スペシャリティ	ヨウ素およびヨウ素関連製品	<ul style="list-style-type: none"> 医療/医薬品 精密/電気機器 など

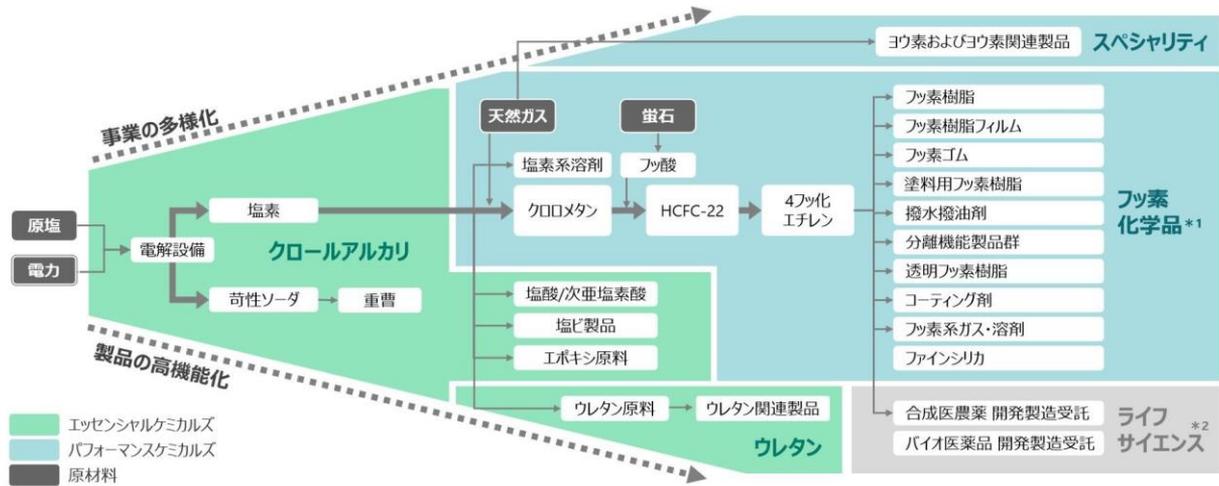
*一部フッ素を原料としない製品を含む

化学品事業の事業規模でございます。

2023年度の売上高はAGCグループ全体の約3割弱、5,741億円でございます。エッセンシャルケミカルズが4,028億円。パフォーマンスケミカルズが1,669億円という結果でございます。

化学品事業のプロダクトフロー

- ガラス原料であるソーダ灰の自給を起点に100年をかけて形成された独自のケミカルチェーン



*1：一部フッ素を原料としない製品を含む *2：2023年より、ライフサイエンスセグメントとして独立

©AGC Inc. 5

化学品事業のプロダクトフローでございます。

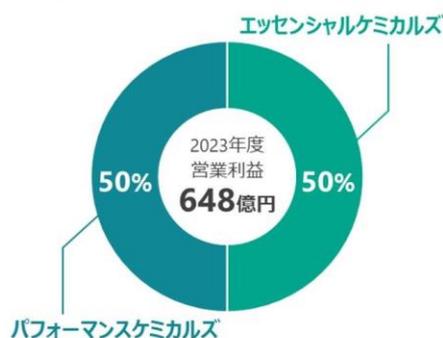
ガラスの原料であるソーダ灰の自給を起点に、その後約100年をかけて、このケミカルチェーンを形成しております。塩水の電気分解を事業の源といたしまして、事業の多様化と製品の高性能化を図りながら、独自のケミカルチェーンを発展させてまいりました。

- 2023年度は東南アジアのクロールアルカリ市況低迷の影響を受け一時的に減益も、両サブセグメントともに積極投資により事業規模は順調に拡大

売上高・営業利益推移



2023年度 サブセグメント別営業利益構成比**



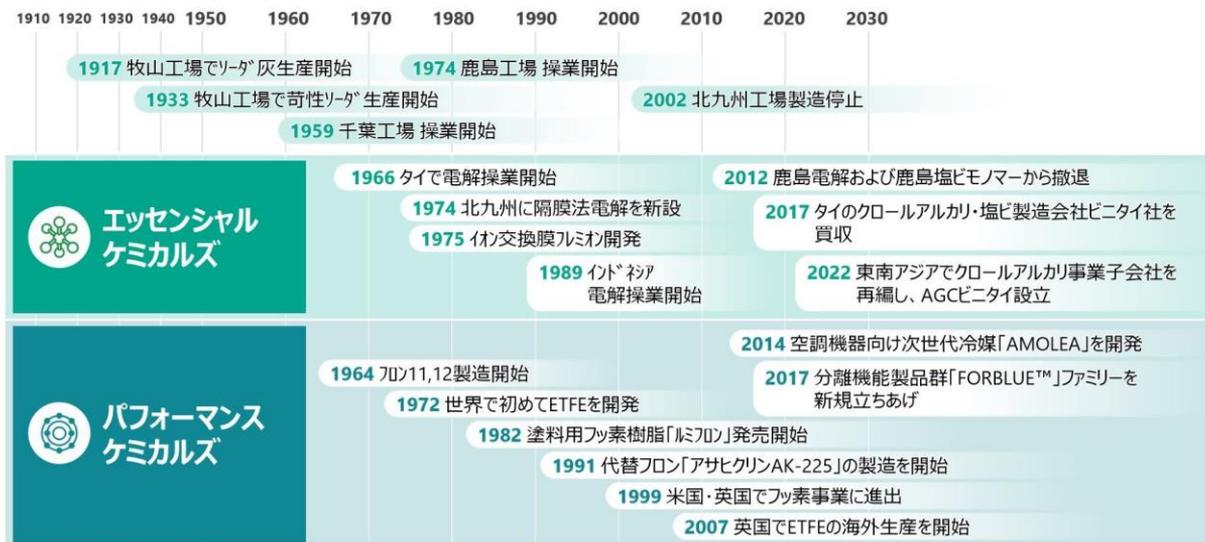
*ライセンスは23年より独立セグメントとして開示 **共通費配賦前

化学品事業の業績推移でございます。

2021年、2022年と続いた、クロアリ市況の好況が一転した昨年2023年は、減益という結果に終わりました。しかし、エッセンシャルケミカルズ、パフォーマンスケミカルズ、両セグメントともに、この10年は順調に事業規模が拡大してまいりました。

営業利益の比率は、エッセンシャルケミカルズとパフォーマンスケミカルズで昨年はほぼ半々という結果でございます。

化学品事業の歴史



化学品事業の歴史でございます。

1917年にガラスの原料でありますソーダ灰の生産を、北九州牧山工場で始めたのが化学品事業の始まりです。

以降、エッセンシャルケミカルズにおきましては、事業の軸足を東南アジアといたしまして、またパフォーマンスケミカルズは次々と高機能製品を生み出して、事業を拡大させてまいりました。

エッセンシャルケミカルズ | 主要製品

- クロールアルカリ製品である苛性ソーダ・塩化ビニル樹脂（PVC）・エピクロロヒドリンは、成長市場である東南アジアにおいてトップシェアを持つ
- ポリオールや変成シリコーンなど、ウレタン関連製品も展開

<p>苛性ソーダ</p>  <p>東南アジア No.1*</p> <p>原料となる塩の山</p> <p>主な用途：化学繊維、紙・パルプ</p>	<p>塩化ビニル樹脂</p>  <p>東南アジア No.1*</p> <p>主な用途：水道管、電線</p>	<p>エピクロロヒドリン</p>  <p>東南アジア No.1*</p> <p>主な用途：接着剤、塗料、電子材料</p>
<p>重曹</p>  <p>主な用途：医薬品、入浴剤、ふくらし粉</p>	<p>ポリオール</p>  <p>主な用途：ウレタンフォーム、エラストマー、接着剤</p>	<p>変成シリコーン</p>  <p>主な用途：シーリング材、接着剤</p>

* 2024年1月時点当社推定（生産能力ベース）

©AGC Inc. 9

こちらから、各サブセグメント、エッセンシャルケミカルズとパフォーマンスケミカルズの事業戦略についてご説明差し上げます。

エッセンシャルケミカルズの主要製品でございます。

クロールアルカリ製品、重曹、ウレタン関連が主要な製品です。なかでも苛性ソーダ、塩化ビニル樹脂、エピクロロヒドリンは、東南アジアで No.1 の生産能力を保有しております。

エッセンシャルケミカルズ | 地域展開

- 東南アジアと日本で事業を展開
- 成長市場である東南アジアでクロールアルカリ事業を拡大

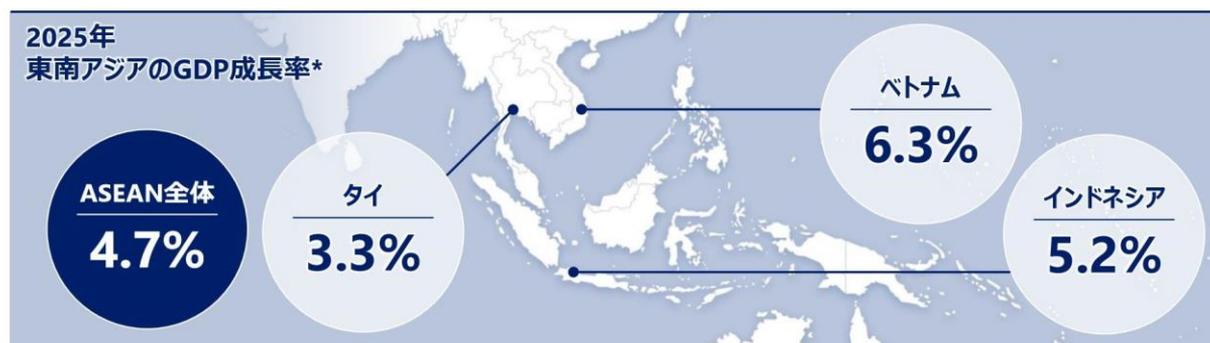
クロールアルカリ製品の拠点別生産能力



地域展開です。

エッセンシャルケミカルズは、日本とアジアで事業を展開しております。なかでも高成長市場であります東南アジアに集中する戦略をとって、事業を拡大させております。

- 東南アジアの苛性ソーダ・塩化ビニル樹脂の需要は、およそ年平均4%拡大
引き続きクロールアルカリ製品の輸入超地域となる見通し
- 苛性ソーダはアルミナ・ニッケル等の大型プロジェクトが需要を押し上げる見通し
- 塩化ビニル樹脂はインフラ投資等によりGDPに合わせた需要の伸びが期待できる



* 出典：S&P Global Market Intelligence

©AGC Inc. 11

東南アジアにおける主要な製品の需給バランスの見通しでございます。

東南アジアにおける苛性ソーダ、塩化ビニル樹脂の需要は、いずれも年平均約4%で成長しておりまして、東南アジア域内における生産能力を上回る状態が継続しており、いわゆる輸入超過地域となる見通しです。この状況は今後もしばらく続くものと見ております。

したがいまして、エッセンシャルケミカルズ事業といたしましては、集中的に東南アジアに資源を投入して、事業を成長させる計画でございます。



ありたい姿

成長する東南アジア市場へ
安定的に製品を提供し、
地域の成長、発展に寄与する

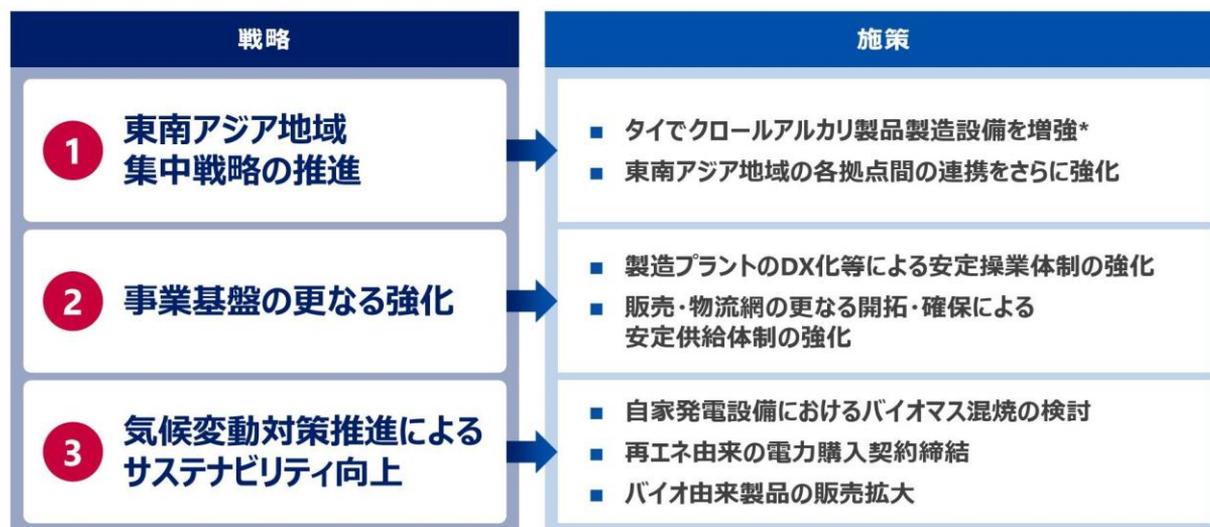


強み

1. 東南アジア最大の生産能力による
高いシェア
2. 長年築いてきた確固とした販売・
物流網による安定した販売・供給力
3. 高いオペレーション技術による
安定生産

エッセンシャルケミカルズ事業のありたい姿と強みでございます。

東南アジア最大の生産能力、長い歴史に裏打ちされた強固な販売物流網、そして安定生産技術を強みといたしまして、成長する東南アジア市場において、地域の成長、発展に寄与し続ける。そういう姿でありたいと考えております。



*関連ニュースリリース

©AGC Inc. 13

課題と施策になります。

東南アジア集中戦略として、2025年、来年にはタイのクロールアルカリ製品製造設備の増強が完成いたします。その結果を受けて、東南アジア3拠点の連携をさらに強化していきます。

また、製造プラントのDX化、さらにはサプライチェーンの開拓・確保により、事業基盤をさらに強化いたします。

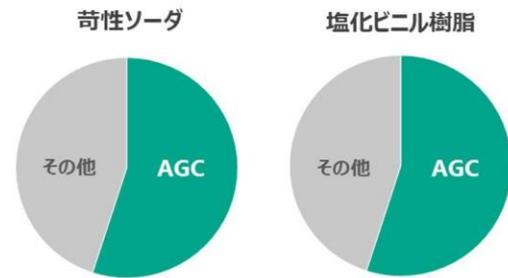
持続的社會への貢献、サステナビリティ経営という観点においては、インドネシア自家発電設備へのバイオマス混焼の導入や、バイオ由来製品の販売拡大などの施策を打っていきたくております。

- 現在建設中のタイのプラント増強により、東南アジアでの当社ポジションは更に上昇

東南アジアクロールアルカリ生産能力 推移 (単位: 万トン)



東南アジアにおけるシェア* (増設後)



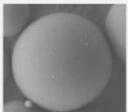
*生産能力ベースシェア
(苛性ソーダは域内に豪州/NZを含まず、塩ビは域内に豪州/NZを含む)

東南アジアにおけるエッセンシャルケミカルズ事業の生産能力とシェアです。

タイでのクロールアルカリ製品製造設備の増強後の姿といたしましては、苛性ソーダ、塩化ビニルモノマー、塩化ビニル樹脂、いずれも 160 万トンを超える生産能力を具備することとなります。増設後の苛性ソーダ、塩化ビニル樹脂の生産能力ベースでのシェアは、50%を超える見込みです。

パフォーマンスケミカルズ | 主要製品

- 売上高のほとんどをフッ素製品が占め、グローバルトップシェアの製品を多く持つ
- 脱炭素社会やデジタル社会を実現するためには欠かせない素材

<p>ETFE樹脂 (フッ素樹脂)</p> <p>世界 No.1*</p> <p>主な用途：電線、チューブ、ライニング・コーティング材</p> 	<p>ETFEフィルム</p> <p>主な用途：膜建築物・エレクトロニクス用離形フィルム</p> 	<p>燃料電池用 フッ素系電解質 ポリマー</p> <p>世界 No.1*</p> 
<p>クロアリ電解用 イオン交換膜</p> <p>世界 No.1*</p> 	<p>現場塗装塗料用 フッ素樹脂</p> <p>世界 No.1*</p> 	<p>ファインシリカ</p> <p>主な用途：化粧品、分析機器、電子材料、塗料</p> 

*1 2024年1月時点当社推定（販売ベース）

©AGC Inc. 16

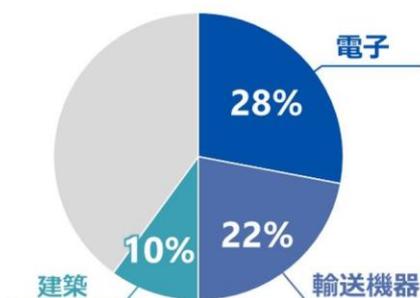
ここからは、パフォーマンスケミカルズに移ります。

パフォーマンスケミカルズの主要製品でございます。

パフォーマンスケミカルズといたしましては、ファインシリカ製品もございますけれども、ほとんどがフッ素製品からなる事業体でございます。フッ素樹脂 ETFE や燃料電池用電解質ポリマーなど、ニッチな分野で世界 No.1 シェアとなる製品を多く持っているのが、パフォーマンスケミカルズでございます。

- フッ素製品の需要の約6割は、
主用途である電子、自動車・航空機などの輸送機器、建築分野
- 残りは多様且つ特殊な分野の需要の積み上げから成り立っている

用途別売上高比率 (2022年)



主要な需要分野でございます。

パフォーマンスケミカルズのフッ素製品は、そのフッ素の持つ特異な特徴から、多様な分野での需要を持っております。なかでも、半導体を含む電子分野、自動車や航空機などの輸送機器、それから建築といったこの3分野において、全体の約6割を占める需要を持っております。



ありたい姿

環境問題をはじめとする社会課題への
対応を通じて培ってきた技術を
更に深化・発展させ、
持続可能な社会の実現に貢献し、
成長する



強み

1. 高収益な特定市場でのNo.1を目指す
グローバルニッチ戦略
2. 製造、販売、商品開発機能を
グローバルに展開
3. 最先端分野ニーズを取り込む
新製品・技術開発力

パフォーマンスケミカルズのありたい姿と強みでございます。

製造、販売、開発機能をグローバルに展開していることにより、最先端のニーズをいち早く取り込む力を持っております。特定の市場で No.1 を目指すグローバルニッチ戦略を強みといたしまして、持続可能な社会への貢献を果たしつつ、事業も成長させていく。そういうありたい姿を実現することを目標としております。

- 半導体の高機能化に伴い、素材への要求スペックが高度化。
特殊な物性を持つフッ素製品の需要は拡大
- 通信の更なる高速化・大容量化に向けた新製品・技術を開発

戦略	施策																		
<p>拡大が見込まれる半導体市場への既存製品の安定供給、新製品投入でプレゼンス向上</p> <div style="text-align: center;"> <p>半導体市場規模*</p> <p>[単位:10億ドル]</p> <table border="1"> <caption>半導体市場規模 (単位:10億ドル)</caption> <thead> <tr> <th>年</th> <th>市場規模</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>'21</td><td>600</td></tr> <tr><td>'22</td><td>600</td></tr> <tr><td>'23e</td><td>550</td></tr> <tr><td>'24e</td><td>600</td></tr> <tr><td>'25e</td><td>700</td></tr> <tr><td>'26e</td><td>750</td></tr> </tbody> </table> </div>	年	市場規模	'21	600	'22	600	'23e	550	'24e	600	'25e	700	'26e	750	<p>国内の高機能樹脂製品の製造能力を増強**</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 半導体関連向けを始めとした旺盛な需要に対応することを目的に、千葉工場のフッ素製品の製造能力を増強 <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td>投資金額</td> <td>約350億円</td> </tr> <tr> <td>稼働開始予定</td> <td>2025年 第二四半期</td> </tr> </table> <p>市場の要請に応じた商品投入</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ プリント配線板材料としてのFluon+™ EA-2000、無機ファイバーとしてのシリカ製品など 	投資金額	約350億円	稼働開始予定	2025年 第二四半期
年	市場規模																		
'21	600																		
'22	600																		
'23e	550																		
'24e	600																		
'25e	700																		
'26e	750																		
投資金額	約350億円																		
稼働開始予定	2025年 第二四半期																		

* グラフはGartnerデータを元にAGCが作成 Gartner®, Semiconductors and Electronics Forecast Database, Worldwide, 3Q23 Update, Rajeev Rajput et al., 4 October 2023, Semiconductor Revenue by Electronic Equipment basis.
GARTNERは、Gartner Inc.または関連会社の米国およびその他の国における登録商標およびサービスマークであり、同社の許可に基づいて使用しています。All rights reserved.

**関連ニュースリリース

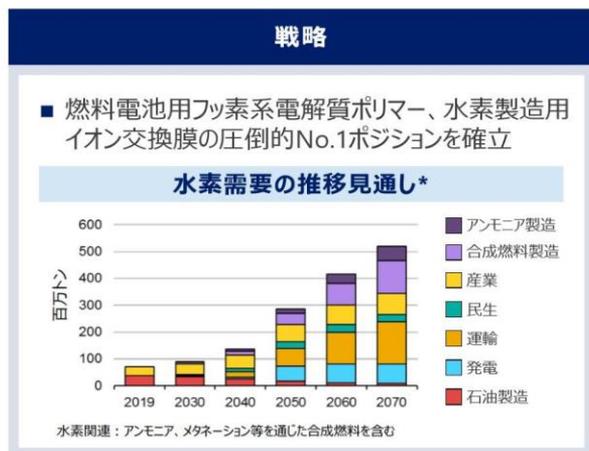
課題と施策でございます。

今後、パフォーマンスケミカルズとして注力していく分野は二つございます。1番目は半導体分野でございます。

半導体の高機能化に伴いまして、耐熱性や耐薬品性、あるいは電気特性などといった素材への要求スペックも高度化しております。そういったなかで、特異な物性を持つフッ素製品の需要は年々拡大している状況です。

半導体製造装置部材に使用されるフッ素樹脂やフッ素ゴムなどの既存製品の拡大に加え、来るべく高速・大容量通信に向けて、Fluon、EA-2000 やファインシリカなど、優れた電気特性を持つ新商品を投入していく計画でございます。

- 来たる水素社会に向け、水素を作る「水電解装置」、水素を使う「燃料電池」製造時に優れたパフォーマンスを発揮する素材を供給



施策

グリーン水素製造に適したフッ素系イオン交換膜の製造設備を新設**

- 第三の国内化学品拠点として北九州事業所に製造設備を新設
- 投資金額は約150億円
- 稼働開始は2026年第二四半期を予定

* 出典：IEA Energy Technologies Perspectives 2020

**関連ニュースリリース

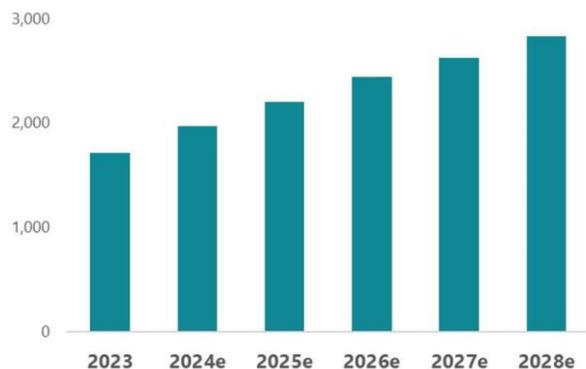
もう一つの注力分野は、水素関連市場でございます。

フッ素系イオン交換膜製造設備の北九州事業所への新設を、本年初めに決定いたしました。他社には真似のできない、AGC 独自の水素を作る水電解装置用イオン交換膜、それから水素を使う燃料電池用電解質ポリマー、この二つを柱に、来るべく水素社会へ素材を提供していく計画でございます。

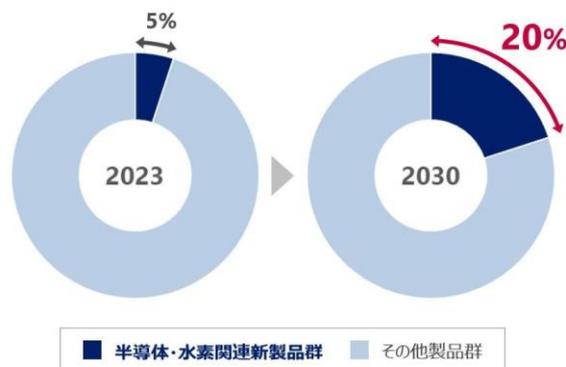
パフォーマンスケミカルズ | 中長期的な業績イメージ

- 既存用途に加え、最先端ニーズを取り込み、2030年には売上高3,000億円以上を目指す

パフォーマンスケミカルズ 売上高イメージ (単位: 億円)



半導体・水素関連新製品群の売上高比率イメージ



パフォーマンスケミカルズの中長期的な業績イメージです。

現状、半導体・水素関連製品という注力分野での売上高比率は約5%でございますが、2030年までには20%まで高めていき、2030年の売上規模3,000億円を目標にやっけてまいります。

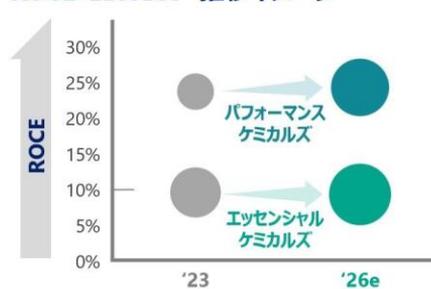
化学品セグメントの業績目標

- エッセンシャルケミカルズは成長市場である東南アジアへの地域集中戦略を継続
- パフォーマンスケミカルズは半導体を含むエレクトロニクス、環境・エネルギー領域へ高機能素材を提供
更なる高付加価値化と事業領域拡大で、グローバルニッチ市場の需要を取りこむ
- 2026年には営業利益860億円、ROCEはエッセンシャルケミカルズで10%程度、
パフォーマンスケミカルズで20%以上を維持

業績推移イメージ



ROCE・EBITDA**推移イメージ



*ライセンスは23年より独立セグメントとして開示 **円の直径：EBITDAの大きさ

続いて、化学品セグメントとしての業績目標でございます。

エッセンシャルケミカルズは東南アジア集中戦略、パフォーマンスケミカルズはエレクトロニクス、環境・エネルギー領域に成長を見いだします。

エッセンシャルケミカルズは10%程度、パフォーマンスケミカルズは20%以上のROCEを維持しつつ、2026年には営業利益860億円規模を見込んでおります。

- PFAS（約12,000種類のフッ素化合物の総称）のうち3物質がストックホルム条約において残留性有機汚染物質に指定されており、現在AGCではいずれの当該指定物質も取り扱っていない
- AGCグループとして企業の社会的責任を果たすため、科学的根拠に基づき、事業活動で生じる環境負荷の最小化と製品を通じた環境課題の解決に向け取り組んでいる



* B J Henry 2018 A Critical Review of the Application of Polymer of Low Concern and Regulatory Criteria to Fluoropolymers

最後に、パフォーマンスケミカルズ事業にとっては、非常に大きなリスクとなりうるということで、PFAS 規制について、現状について簡単にご説明差し上げたいと思います。

まず、昨年 2 月に欧州 REACH 規制の案として公開された PFAS 規制案でございますが、現状まだ議論が継続しておりまして、規制の内容は見えてきておりません。

フッ素製品を事業として取り扱っている AGC が今言えることとしては、AGC の主な製品はほぼ全て PFAS というフッ素化合物の総称に含まれるものではございますが、既に法が成立し、規制物質として指定されている PFOS、PFOA、PFHxS については、AGC は既に全廃しているか、あるいは製造販売の実績もないものでございます。

AGC グループとしては、社会的責任を果たすために、事業活動で生じる環境負荷の最小化と環境負荷の解決に向けて、取り組んでまいります。

- 現在規制案についてECHA(欧州化学品庁)の専門委員会が検討中
- 多くのパブリックコメント（パブコメ）が寄せられ、ECHAの専門家委員会による法案の評価プロセスに時間を要しており、第二回のパブコメ募集時期および、その後の規制スケジュールは不透明。
- AGCグループも第一回のパブリックコメントを提出した。

欧州における規制検討プロセスの流れ

- ① ECHAによる2回のパブコメを経て、専門家委員会が最終意見を作成/提出
- ② 欧州委員会は提出された最終意見を基に法案作成、加盟国で構成のREACH委員会で審議/採択
- ③ 採択された法案は欧州議会・理事会による精査を経て発効



なお、直近の PFAS 規制案の動向でございますけれども、規制案原案に対しまして、想定以上のパブリックコメントが寄せられたため、規制修正案の検討に時間を要しています。いつ、次のステップであります欧州委員会での議論のフェーズに移るか、現時点でまだスケジュールが明確化されていないというのが現状でございます。

駆け足でございますが、私からのご説明は以上となります。

小川： 梶井さん、ありがとうございました。

[了]